



夢の実

佐賀大学理工学部同窓会会報

2008.10.1

No.10



有明海総合研究プロジェクト

有明海総合研究プロジェクト長 荒牧 軍治

佐賀大学有明海総合研究プロジェクトは、平成12年（2000年）冬から翌春にかけて有明海全域で発生した海苔の色落ち被害を契機に組織した「有明海等調査研究会議」を発展解消する形で、平成16年春に佐賀大学の教育研究経費（学長裁量経費）の支援を受け全学部の教員の参加でスタートしました。翌平成17年度からは文部科学省の教育研究特別経費による支援を得て、新たな5年計画として再出発しました。初年度約2億円、次年度以降約1億円、5年間で総額約6億円の巨費を投じた研究プロジェクトです。

有明海総合研究プロジェクトは、中心課題として地域から求められている異変の解明と再生策提言に取り組むとともに、有明海沿岸域で発生している人食いバクテリアによる感染症予防や有明海泥干潟に眠る微生物資源の利用、有明海沿岸域の地域社会・文化をも対象とした総合的研究に取り組み、地域学としての「有明海学」の構築を目指すことを目標に掲げました。

プロジェクト研究の開始当初は、資金を集中して行うプロジェクト型研究は5年間で終了し、それ以降は研究者の自由な発想に委ねた研究を継続すればよいと考えていました。ところが、佐賀大学を含む多くの研究機関、環境省、農林水産省を始めとする国の機関、有明海沿岸域の各県の諸機関が精力的に調査研究を実施した結果、有明海環境の現状を一定程度説明することはできたものの、複雑に絡まりあった有明海異変の原因を解明したと言い切ることも、再生に向けたロードマップを描くこともできていません。そんな中、本

年6月27日に佐賀地裁が出した「開門調査を命ずる」判決は、有明海問題が過去の問題ではなく、まさに現在進行中の社会問題であることを再確認させることになりました。この判決を受けて、農林水産省は開門調査を前提とした環境アセスメントを実施するとともに、有明海における漁業振興を目的とした新たな調査研究を開始することを宣言しました。有明海に関する調査研究が国の事業として継続しているのです。

有明海湾奥部に位置する佐賀大学は、有明海問題を総合的に研究することは地元大学の責務であるとの認識から、次期中期目標期間の方向性を示した「佐賀大学中長期ビジョン2008-2015」で有明海研究を戦略的研究課題とすることを明記しました。戦略的研究を継続するとなれば、これまでの成果を総括するとともに今後の研究課題を明示し、新たな研究体制を確立しなければなりません。

今後の研究課題は明白です。これまでのプロジェクト研究で構築してきた有明海シミュレーションモデルを完成させ、現在有明海で起こっている貧酸素水塊や赤潮の発生を予測、説明しうることを確認した上で、対策として候補に挙がっている施策の有効性とその投資効果を分析し、提言を行うことです。佐賀大学は、有明海研究を戦略的研究課題として位置づけをしましたが、問題は、研究体制をどのように確立するかです。法人化以降、人件費削減の流れの中で、有明海研究を相当のレベルで実施できる研究者をどのように確保するか、悪戦苦闘が続いています。



同窓生のものづくり

Vol.6

この特集は、理工学部出身の同窓生（数物情報系、化学系、機械系、電気電子系、建設系の学科・大学院グループからそれぞれ1名ずつ）に執筆をお願いいたしました。綴られる各分野での「ものづくり」やその思いを通し、みなさんの活動への刺激や新たな交流の機会となれば幸いです。

情報科学系

学生の成長に感動

学校法人永原学園 西九州大学
高元宗一郎

（情報科学専攻・H14年修了）

私は、佐賀県で唯一の4年制私立大学である西九州大学に勤めています。したがって、「ものづくり」をやっているわけではありませんが、「人材育成（人づくり）」も範囲内だと拡大解釈して



頂いて、目を通して頂ければ助かります。さて、西九州大学のことをあまりご存知でない方もいらっしゃると思いますので、少し紹介させていただきます。本学は佐賀県神埼市にあり、学生数は1200名程度の小規模大学です。同じ学園内には佐賀市に佐賀短期大学や三光幼稚園といった施設があります。

私は、この西九州大学で主に情報処理システムの管理や情報処理教育を担当しています。システム管理では、学内全体（教育・研究・事務）のシステム管理及びユーザー（教職員、学生等）サポート業務などです。教育面では、情報処理が関係する講義のサポートを行っています。

私がこの職に就いて感じるようになったのは、学生が日々成長することへの感動です。つい先日、学生のボランティア活動に同行する機会がありました（福祉関係の学科がありますので、こういう機会が多いのです）。そこでは障がい者のためのスポーツ大会が行なわれており、学生はその運営スタッフとして活動していました。驚いたのは、彼らが入学直後には考えられないほどの積極性で堂々と自信を持って活動していたことです。入学してから1~2年経っただけで、ここまで成長するのかと感心してしまいました。このような学生のちょっとした成長を目の当たりにすると、（私は直接関係ないはずなのに）感動してしまいます。

本来は私の専門である情報処理分野で、学生が成長したことに感動しなければならないのですが、私の力量不足でそこまでは至っていません。これから私自身も彼らと共に成長して、私の関わることで学生が成長する姿を見て感動できるように頑張りたいと思います。

電気電子系

夢を抱き挑戦し続ける

株式会社 KMTec
代表取締役 社長 久米 祐介

（エネルギー物質科学専攻・H20年修了）

私は2年前、学生時代に「KMTec」という会社を起業しました。学生時代に感じていたことは、「地方の企業、特に、中小企業というのは、なぜ協力して大企業のような形態をとらないのだろうか？」ということでした。小さな企業でもここだけは誰にも負けないという技術は必ずあると思います。そういう企業が集まれば良い製品が作れるのではないかと考えたのが起業のきっかけでした。この考えは、産学連携などで構想されていると思いますが、もっと身近に、出来れば、自分の力でそういったお手伝いが出来ればと今でも切に願っています。

今の時代、何を作っても売れば良いという時代ではありません。環境に配慮しつつ、10年、20年先の将来を見据えて仕事をしていかなければならないと考えています。弊社では、「環境」をキーワードに技術開発を行い、製品の試作などを行っております。

弊社で培われた技術が社会のためになり、また、関連する会社が潤う...そんな経済の循環における Win Win の関係の構築、これが私の夢であります。

現在は、水処理装置や水浄化装置など、「水」に関する研究等のお仕事を頂いて毎日設計や開発をしています。殆ど仕事というのが0からの出発で膨大な勉強が必要になります。試験研究、理論解析、試作設計、量産設計...忙しい毎日です。でも、毎日が充実して楽しいです。おそらく、普通に就職していたら製品に関して0~10まで関わる人はいないでしょう。技術者としてこれほどの幸せはないのかもしれませんが、このような機会を与えて頂いた大学を含め、現在お世話になっている関係者の方に感謝の念を忘れません。

今は、小さな小さな会社です。設立当初から協力してくれているメンバーや協力企業の皆様と、将来、世の中をひっくり返すような製品を共に作り、そして、共に成長していけたらと想い描いています。



水処理開発における原理実験風景

人間は、皆、毎日成長し続けなければならないでしょう。立ち止まっては下る一方です。日々成長し続け、夢に向かって努力を惜みず、そして挑戦し続ける気概を持ち続ける...非常に難しいことですが、これからも一所懸命に頑張ってください。

タイからの便り

三菱電機株式会社
平石康太郎

(機械工学科・S49年修了)

私は現在タイ国に住んでいます。

三菱電機(株)と合弁企業に勤めています。つまり出向の身であります。

出向は10年前からですが、最初は1997年にタイ国にあるエアコンの工場に3年間、2001年から SCOTLAND (UK のひとつ)にあるエアコンの工場に6年半そして2007年から再びタイ国にて冷蔵庫・扇風機の

工場にて勤務しております。

いまタイ国は、非常事態宣言が発令されて世界中からある意味で注目されています。

おらかなタイの人たちは「マイペンライ」で毎日楽しくすごしています。

日本企業の本社では大変な状況ではないかと敏感になっているようですが、当地にいとそんな気配は感じられません。

今回の騒動は長引くと懸念されていますが、企業にとってはいかに事業運営するかが感心あるところです。

タイに出張または旅行でおいでの方は、お気をつけおいでください。

化学系

ハイブリッド自動車で子供たちに明るい未来を

トヨタ自動車 第2HVユニット生技部
2次電池開発室 開発2G 内田 陽三

(循環物質工学専攻・H15年修了)

私の学生時代は、ほとんど勉強せず、アルバイトと酒に溺れる怠惰な毎日を過ごしていました。しかし、大学院に入ってから、夏休みを利用してアメリカへ1ヶ月間の短期留学経験、更にはアジアの国々をバックパック1つで1ヶ月間放浪し、世界と未来を意識した前向きな考え方に変わっていったと記憶しています。



そんな私ですが、現在、トヨタ自動車ではハイブリッド自動車に必要な2次電池の開発を行っています。ハイブリッドは、間違いなく今後の自動車メーカーの勝敗を決め、かつ環境への貢献度も高い技術です。しかし、過酷な使用環境・安全性・長寿命・原価などを満たす設計が必要であるため、技術的課題は山積みです。また、3万点もの部品から構成されるほど自動車は複雑で、それに伴い部署間の連携も複雑となるため試行錯誤の毎日です。そんな中、技術動向調査のために学会へ行くことがありますが、佐賀大学の先生方が第一線でご活躍されている姿を拝見し、非常に誇らしく感じます。

私にとって『ものづくり』とは、資源の乏しい日本が今後も繁栄を続けていくためには、最も重要な要素だと思っています。そしてその『ものづくり』を通して、私という人間をこれまで育ててくれた社会や国に対して産業報国する事は、私の責務だと考えています。それに加え、私が取り組むハイブリッド技術によりCO₂を削減して温暖化を抑制し(CO₂が主要因かは議論の余地有) 限りある資源の有効活用に貢献できれば、これはまさに最高の幸せです。そんな思いを胸に、これからも佐賀大学の卒業生として『ものづくり』に励んでいきたいと思っています。

ハイブリッド技術で、
地球そして次の世代の子供達に明るい未来を

建設系

マレーシアで未来の技術者を育てる

トゥン・フセイン・オン大学(マレーシア)
モハマド・ニザム・ビン・ザカリヤ

(都市工学科・H16年修了)

私は、マレーシアから留学生として2000年に佐賀大学に来ました。日本に来る前に少し日本語を勉強して、最初大学院ではなく、都市工学科の1年生に入学しました。佐賀大学ではたくさんの日本の友達が出て、勉強は全部日本語だったので少し大変でしたが、とても楽しくて充実していました。そのあと、佐賀大学を卒業して、大学院に進みました。大学院では帯屋先生の研究室で骨組構造物の大変形接触解析の勉強をして、フォートランのプログラムを作りました。とても難しかったけれどやりがいがある研究でした。就職はマレーシアのトゥン・フセイン・オン大学のシビルエンジニアリング学部の講師になることができました。この大学は、マレーシアのクアラルンプールとシンガポールのちょうど真ん中くらいにある、とても小さな町にあります。田舎です。でも、大学には学部はたくさんありますし、大きな総合大学です。私はここで、構造力学を教えて、前は帯屋先生が私に教えていたように、今は、私が学生に研究を指導しています。研究の内容は、研究室がコンクリート研究室なので、学生のとときの構造解析から変わって、今は、コンクリートの品質と耐力の関係や、コンクリートの鉄筋の代わりに、ケナフという葦のような植物を使った場合に、本当に建物に使えるかどうかの実験などを行っています。話は変わりますが、今年の3月に結婚しました。奥さんは同じ大学の不動産学部で講師をしています。今年の7月には、帯屋先生が研究の打ち合わせと私の結婚のお祝いをしてくれるために、マレーシアまで来てくれました。久しぶりに帯屋先生と会ってとても楽しい時間をすごしました。来年になったら、今度は佐賀大学のドクターコースで勉強するために、奥さんと二人で日本に行きたいと思っています。

平成20年度菱実会総会の報告

8月30日(土)佐賀大学「菱の実会館」にて、総会を開催された。

平成19年度の事業及び決算並びに、平成20年度の事業計画と予算が承認された。

平成20年度の事業計画

- | | |
|-------------|---------------------|
| 1. 会報の発行 | 6. 各種情報の提供 |
| 2. 会員の拡大 | 7. 佐賀大学及び他学部同窓会との連携 |
| 3. 同窓会名簿の管理 | 8. 同窓生の表彰 |
| 4. 同窓会支部活動 | 9. その他の事業 |
| 5. 就職援助活動 | 10. その他 |



平成20年度同窓会提供講座風景

佐賀大学理工学部学生表彰式



平成19年度(平成20年4月9日)

平成20年4月9日(水)今回で4回目となる理工学部学生表彰式が行われた。

学生表彰は、2年次及び3年次の学生で成績が優秀であると認められる学生に対して、各学科から2人、合わせて14人が表彰され、理工学部同窓会(菱実会)からは、図書券が贈られた。

学 科	2年生(06)	3年生(05)
数理科学科	山下 拓 郎	古 館 真 吾
物理科学科	西 垣 伸 彰	岡 口 広 樹
知能情報システム学科	野 田 みどり	真 崎 純 一
機能物質化学科	倉 成 利 幸	新 町 洋 文
機械システム工学科	仁 部 耕 輔	森 崎 敬 史
電気電子工学科	中 島 崇 臣	後 藤 和 彦
都市工学科	下 田 直 也	宮 部 紘 史

菱実会の動き(平成19年10月～平成20年9月)

- | | |
|---|--|
| H19.10.1 理工学部同窓会会報「菱の実 9」発行 | H20.1.24 理工学部就職懇談会への支援 |
| H19.12.12 理工学部就職懇談会への支援
機能物質化学科 講師2名(卒業生) | 機械システム学科 講師2名(卒業生) |
| H19.12.21 理工学部就職懇談会への支援
物理科学科 講師1名(卒業生) | H20.2.8 理工学部就職懇談会への支援
電気電子工学科 講師3名(卒業生) |
| H19.12.29 理工学部就職懇談会への支援
知能情報システム学科 講師2名(卒業生) | H20.4.9 理工学部学生表彰 同窓会より同窓会長賞贈呈 |
| H20.1.11 理工学部就職懇談会への支援
数理科学科 講師2名 | H20.5.22 理工学部同窓会会計監査(平成19年度決算) |
| | H20.7.16 理工学部同窓会役員会 |
| | H20.8.30 理工学部同窓会総会・懇親会/佐賀大学「菱の実会館」 |
| | H20.9.22 理工学部同窓会会報「菱の実 10」編集会議 |

事務局では会員皆様方からのご寄稿をお願いしています。理工学部に関する昔の思い出や、現在の会社のPRなどございましたら、お名前、卒業年次、在籍学科、現在の会社名などを添えて、事務局宛に連絡下さい。皆様方からのご寄稿を心よりお待ちしております。

発 行 佐賀大学理工学部同窓会 菱実会
佐賀市本庄町1佐賀大学内
TEL 0952 23 1253 FAX 0952 25 5700
http://dousou.ext.saga-u.ac.jp/ E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp

発行者 田中 正和(S48・化) **編集代表者** 池上 康之(S61・生機)